

〈目的〉 前報では、フレアースカートの着装実験を行ない、フレア効果を判定する方法を考案すると共に、スカート丈とフレア効果との関係について検討した。本報では、フレアースカート着装時における生体、特に腹部・腰部体型に着目し、体型的特徴とフレア効果との関係について検討を試みた。

〈方法〉 1) 試料及びスカートの製作は前回と同じ綿ブロード、モフラノの4枚はぎフレアースカートとした。2) 被験者は年令20~21才の女子学生でW寸法のほぼ等しい(62±1cm)10名を選んだ。3) 腹部・腰部の体型把握は、実験衣を着用した被験者に、前後正中線、脇線及びWラインを基準に下方へ5cmごとに等間隔横断線5箇所をマークし、各横断線位置における①水平断面図(スライディングゲージ法)、②周径、矢状径、幅径(マルケン式測定法)、③シルエット角度(前面、側面の写真撮影法)を測定した。4) フレア効果は、前回の装置により、すそ形状を測定し、又着装時のシルエットを撮影した。

〈結果〉 1) 被験者の幅径/矢状径の値が小さい、丸みのある体型では、フレアースカートのすそ形状の広がり、前面、側面共に小になる傾向が認められた。2) フレアのシルエットにおいて、腹部・腰部の形状が及ぼすフレア効果の差異は、Wラインから下方5~10cm間に表われ、W周径との差が小さいとフレアの始発がベルト位置に近づく、差が大なる程下方になる傾向である。3) フレアの腹部・腰部のシルエット角も2)と同様被験者間に差異が認められるが、すそにおける角度は体型的特徴より、むしろ素材特性の影響が大になると思われる。